

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	3
5 課題別委員会の開催とその議題	7
6 サイエンスカフェの開催	8
7 総合科学技術会議報告	8
8 インパクトレポート	8

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4月17日(木)	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
4月17日(木)	春の園遊会(赤坂御苑)	家副会長
4月24日(木)	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
4月24日(木)	オランダ国王陛下誕生記念レセプション (オランダ王国大使公邸)	大西会長

(注) 部会、委員会等を除く。

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部会(第8回)(4月10日、4月11日)

・報告事項

- ①機能別委員会(科学、科学と社会、国際) ②分野別委員会報告
- ③第一部大型研究計画評価分科会
- ④第一部福島原発災害後の科学と社会のあり方を問う分科会
- ⑤人文・社会科学振興分科会 ⑥第23期選考委員会人文・社会科学専攻分科会
- ⑦第一部国際協力分科会

・協議事項

- ①役員の交代について ②会員・連携会員の選考について
- ③期の移行に伴う分科会の存続廃止について ④委員選考について
- ⑤夏季部会について ⑥その他

(2) 第二部会(第8回)(4月10日、4月11日)

- ①分野別委員会からの報告等について ②分科会の存続・廃止について
- ③生命科学分野における参照基準の作成状況について
- ④学術大型研究計画の決定について
- ⑤夏季部会・シンポジウム(名古屋開催)について
- ⑥第23期会員・連携会員の選考について
- ⑦生命科学分野における研究不正に対する第二部の対応について ⑧その他

(3) 第三部会(第8回)(4月10日、4月11日)

- ①夏季部会準備状況報告 ②23期会員・連携会員選出に関する方針
- ③科学・夢ロードマップの審議状況 ④各分野からの活動報告
- ⑤今後の活動及び23期への申し送り事項 ⑥その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 若アカデミー委員会学術の未来検討分科会 (第10回) (4月8日)
①「学术界・若手研究者への期待」に関するヒアリング ②その他
- (2) 東日本大震災復興支援委員会 (第8回) (4月10日)
①災害に強いまちづくり分科会からの提言(案)について ②その他
- (3) 東日本大震災復興支援委員会 産業振興・就業支援分科会 (第12回) (4月11日)
①提言骨子について ②シンポジウムについて ③その他
- (4) 原子力利用の将来像についての検討委員会 原子力学の将来検討分科会 (第6回) (4月16日)
①役員辞任について ②提言案のとりまとめについて ③その他
- (5) フューチャー・アースの推進に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会 (第4回) (4月21日)
①提言案の審議 ②シンポジウムの開催について ③その他
- (6) 東日本大震災復興支援委員会 災害に強いまちづくり分科会 (第11回) (4月22日)
①提言案の検討 ②その他
- (7) 東日本大震災復興支援委員会 災害に対するレジリエンスの構築分科会 (第9回) (4月23日)
①提言のとりまとめ ②その他
- (8) 科学研究における健全性の向上に関する検討委員会 研究倫理教育プログラム検討分科会 (第2回) (4月25日)
①研究倫理教育プログラムについて ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 科学者委員会 知的財産検討分科会拡大委員会 (第1回) (4月10日)
①とりまとめの方針について ②その他今後の課題
- (2) 科学者委員会 (第38回) (4月11日)
①平成26年度各地区会議事業計画について ②協力学術研究団体の指定について
③その他
- (3) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 (第28回) (4月11日)

①シンポジウムについて ②英語版について ③その他

(4) 科学と社会委員会 広報分科会 (第26回) (4月11日)

①日本学術会議の広報活動について ②『学術の動向』への編集協力について
③その他

(5) 科学者委員会 男女共同参画分科会 (第11回) (4月12日)

①学術フォーラムの実施検討について ②報告書の作成について ③その他

(6) 国際委員会 アジア学術会議分科会 (第16回) (4月17日)

①議事要旨の確認 (第14回及び第15回)
②第14回SCA大会に係る審議事項 ③その他

(7) 国際委員会 防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会 (第1回)
(4月24日)

①役員を選出について ②本日のご議論いただきたい事項 ③その他

(8) 国際委員会 (第37回) (4月25日)

①第14回アジア学術会議派遣者及び招へい者について
②国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 史学委員会 (第13回) (4月10日)

①次期の会員・連携会員の推薦について
②今期中の各分科会の活動について－「提言」「報告」等の準備状況等－ ③その他

(2) 社会学委員会 (第9回) (4月10日)

①次期社会学委員会のあり方について ②その他

(3) 地域研究委員会 アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会 (第2回)
(4月10日)

①今後の進め方 ②その他

(4) 地域研究委員会 地域統合分科会 (第1回) (4月10日)

①委員長の選出 ②今後の進め方 ③その他

(5) 法学委員会 (第4回) (4月10日)

①次期役員人事について ②今期の活動のまとめについて ③その他

(6) 哲学委員会 (第9回) (4月11日)

- ①平成26年度シンポジウム企画について
- ②第22期の活動のまとめ（提言等）について
- ③第23期会員・連携会員の推薦について ④その他

(7) 言語・文学委員会（第9回）（4月11日）

- ①次期会員・連携会員について ②今期の活動のまとめについて ③その他

(8) 政治学委員会（第7回）、政治学委員会 政治学分野の参照基準検討分科会（第7回）（4月11日）

- ①政治学の参照基準について ②提言について ③その他

(9) 経済学委員会（第5回）（4月11日）

①報告事項

- (i) 各分科会からの活動報告
- (ii) 経済学参照基準検討の経過
- (iii) その他

②協議事項

- (i) 次期日本学術会議会員・連携会員の推薦
- (ii) 今後の活動計画
- (iii) その他

(10) 法学委員会 立法学分科会（第3回）（4月12日）

- ①法学公開シンポジウムの企画 ②その他

(11) 経営学委員会（第8回）（4月12日）

- ①高齢者分科会の期間延長について
- ②大学院質保証分科会の期間延長希望（ただし9月）について
- ③リスクマネジメント学会共済シンポジウム報告について
- ④その他

(12) 社会学委員会 社会福祉学分野の参照基準検討分科会（第5回）（4月14日）

- ①報告内容（案）の検討 ②その他

(13) 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会（第6回）（4月19日）

①提言の準備について

報告者 氣多雅子委員、桑原直己委員、直江清隆委員

- ②その他

(14) 経済学委員会 経済学分野の参照基準検討分科会（第11回）（4月24日）

- ①参照基準（案）の検討 ②今後の進め方について ③その他

第二部担当

- (1) **基礎生物学委員会** (第3回) (4月10日)
①当面の諸課題について ②今期のとりまとめに向けた進め方 ③その他
- (2) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物科学分科会** (第4回) (4月10日)
①最近の政府の動きと今後 ②研究者の不正行為と国の動き
②生物科学学会連合について ④研究材料の取り扱いと世界の動き
⑤生物科学の今後について ⑥その他
- (3) **農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 東日本大震災に係る食料問題分科会** (第6回) (4月10日)
①シンポジウムの開催について ②分科会の今後の進め方について ③その他
- (4) **農学委員会** (第10回)・**食料科学委員会** (第10回) **合同会議** (4月11日)
①大型研究計画の選考結果について (報告)
②夏季公開シンポジウム (農学委員会・食料科学委員会主催) (平成26年8月10日、三島市、世話人倉田委員) の準備状況 (報告)
③農学分野の参照基準の検討状況について (報告)
④各分科会の活動について (報告) ⑤その他
- (5) **臨床医学委員会** (第6回) (4月11日)
①臨床医学委員会前期活動報告 ②各分科会の活動報告 ③その他
- (6) **農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会** (第7回) (4月15日)
①副委員長の選任 ②分科会報告案の最終検討 ③その他
- (7) **農学委員会・食料科学委員会合同 農学分野の参照基準検討分科会** (第7回) (4月18日)
①報告書の原案の報告 (小田切委員、荊木参考人) と意見交換
②今後の分科会の運営、特にシンポジウムについて ③その他
- (8) **農学委員会 農業生産環境工学分科会** (第9回) (4月21日)
①各分野 (WG) の報告 ②シンポジウムと学術会議報告について
③鷲谷先生との地域連携保全活動についての意見交換
④今後の活動について ⑤その他
- (9) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 海洋生物学分科会** (第7回) (4月21日)
①マスタープラン2014の公表 ②海洋教育シンポジウム/フォーラムの開催
③その他

(10) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同 バイオインフォマティクス分科会 (第7回) (4月25日)

①提言内容の審議 ②今年度の活動について ③その他報告事項

第三部担当

(1) 環境学委員会 (第14回) (4月11日)

①各分科会報告 ②各分科会からの提言発出について ③その他

(2) 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会 (第15回) (4月11日)

①提言のとりまとめについて ②その他

(3) 環境学委員会環境科学分科会 (第5回) (4月14日)

①今後の活動方針について ②その他

(4) 土木工学・建築学委員会 低炭素建築・都市マネジメント分科会 (第13回) (4月15日)

①報告書原案についての審議 ②今後のスケジュール ③その他

(5) 機械工学委員会 ロボット学分科会 (第8回) (4月15日)

①第22期の取りまとめについて ②その他

(6) 土木工学・建築学委員会デザイン等の創造性を喚起する社会システム検討分科会 (第14回) (4月15日)

①提言に関する討議 ②今後の予定

(7) 統合生物学委員会・環境学委員会合同自然環境保全再生分科会 (第7回) (4月16日)

①公開講演会について ②分科会の提言案について ③その他

(8) 総合工学委員会 原子力事故対応分科会福島第一原発事故調査に関する小委員会 (第17回) (4月21日)

①5月14日シンポジウム打ち合わせ

②第二報内容の審議

(i) 3.1 3号機 HPCI 操作について

(ii) 3.2 ベント操作について

(iii) 3.3 2号機の事故進展に関して

③その他

(9) 化学委員会 (第7回) (4月21日)

①会員・連携会員の選出について ②その他

(10) 地球惑星科学委員会・人間圏分科会 (第12回) (4月21日)

①分科会議事録(案)の確認 ②地球人間圏科学提言について ③その他

(11) 土木工学・建築学委員会大学等研究・教育キャンパス整備に関する検討分科会 (第10回) (4月22日)

①提言案についての討議 ②今後の予定

(12) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 交通事故死傷者ゼロ検討小委員会 (第9回) (4月22日)

①「ITS 世界会議関連の最新情報」

特定非営利活動法人 ITS Japan 常務理事 花井利通氏

②「国交省における車両安全対策について(仮題)」

国交省自動車局技術政策課技術企画室長 久保田秀暢氏

③安全工学シンポジウムの企画について

ボッシュ・コンチの打診結果?

④その他

・小委員会の活動記録作成について

・次回日程

(13) 科学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・科学工学分科会 (第8回) (4月24日)

① 今後の活動についての議論

(14) 情報学委員会国際サイエンスデータ分科会 (第5回) (4月25日)

①対外報告について ②CODATA役員の推薦について ③その他

(15) 材料工学委員会 (第10回)・材料工学将来展開分科会 (第11回) (4月25日)

①材料工学連合講演会について ②材料工学の参照基準の策定について

③材料工学の夢ロードマップについて ④各分科会の活動報告 ⑤その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 暫定保管と社会的合意形成に関する分科会 (第3回)・暫定保管に関する技術的検討分科会 (第5回) 合同会議 (4月14日)

① 社会的分科会関連

(i) 参考人からのヒアリングと質疑応答・意見交換

(資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力立地・核燃料サイクル産業課放射性廃棄物等対策室室長：伊藤正雄氏)

(北海道大学大学院経済研究科教授：吉田文和氏)

- (ii) 今後の審議の進め方について
 - (iii) その他
- ② 技術的分科会関連
- (i) 今後の審議の進め方について
 - (ii) その他

(2) 高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会 暫定保管
と社会的合意形成に関する分科会 (第4回) (4月24日)

- ① 参考人からのヒアリングと質疑応答・意見交換
(核燃サイクル阻止一万人訴訟原告団 代表、弁護士：浅石紘爾氏)
(核燃サイクル阻止一万人訴訟原告団 事務局長：山田清彦氏)
- ② 今後の審議の進め方について
- ③ その他

6 サイエンスカフェの開催

日 時：4月18日 (金) 18:30～20:30
場 所：サロン・ド・FUZAMBO Folio
テーマ：「健康を支える腸、腸を支える食べ物」
ゲスト：清水 誠 (東京農業大学応用生物科学部教授・東京大学名誉教授)
コーディネーター：室伏 きみ子 (日本学術会議会員、お茶の水女子大学名誉教授)

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

4月14日 欠席

2. 専門調査会

4月22日 科学技術イノベーション政策推進専門調査会 欠席

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

4月17日 出席

4月24日 出席

8 インパクトレポート

提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて
—成育時間の課題と提言—」インパクト・レポート

1 提言内容

子どもの成育環境は空間、時間、方法、コミュニティという4つの要素で総合的に捉えられねばならない。この4つの要素を軸にした我が国の子どもの成育環境の

再構築が重要だというメッセージは 2007 年の対外報告「我が国の子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の確立に向けて」の中に述べられている。引き続き設立された心理学教育学委員会（第 1 部）、臨床医学委員会（第 2 部）、環境学委員会（第 3 部）、土木工学・建築学委員会（第 3 部）合同子どもの成育環境分科会より、2008 年に「成育空間の課題と提言」が発表された。さらに健康生活科学委員会（第 2 部）が加わり、5 委員会合同分科会として 2011 年に成育方法の課題と提言、2013 年に本提言（成育時間の課題と提言）が公表された。

我が国の子どもの体力・運動能力は 1985 年以降低下を続けている。肥満や糖尿病などのリスクを抱える子どもの増加、不登校、引きこもり等精神的困難に陥る子どもが増加するなど、その成育状況は深刻である。ユニセフの調査によれば我が国の 15 歳の子どもは世界でも突出して「孤独だ」と感じており、40 年間で中学 3 年生の学習意欲は 40%減少したという報告もある。これらはさまざまな社会的要因が考えられるが、子どもの生物的時間と生活時間の乱れによるところも大きい。具体的には以下のように 6 項目を挙げ、早急に我が国の子どもの成育時間の改善が求められることを提言した。

- (1) 生活時間の分断化からの転換を我が国の子どもは幼稚園、小学校の段階からテレビ視聴や稽古事、塾等によって、生活時間が分断化される傾向が強い。子どもの生活時間をもっとゆったりとした体験ができる時間として確保すべきである。
- (2) 触れ合い体験と安らぎの時間を父親が子どもと接触する時間を増やせるよう適切な労働時間にすること、またコミュニケーション力を育むために子ども同士が群れて遊ぶ時間を確保することは重要である。
- (3) 祭り等の体験による思い出深い時間を地域文化に触れるためにも季節の様々な行事に子どもが参加できる仕組みづくりが必要である。
- (4) 成長段階の適切な時期に適切な体験を体を動かし、外遊びを通して友達をつくる、自然を楽しむ、祭りを楽しむ等の活動は 10 歳頃までにしておかねばならない。
- (5) 成育時間に関する調査研究の推進とその成果に基づく子どもの育ちの支援生活時間の実証的研究の推進と支援体制の構築、その成果に基づく育ちの支援が必要である。
- (6) 成育時間健全化のための政策・社会制度の見直し子どもの健全な成育時間の確保は極めて大切であるにも関わらず十分に理解されているとは言えず、子どもの生活全体における具体的・定量的な指針は策定されていない。成育時間の目標設定のため具体的なガイドラインの検討を進めるべきであり、それらの実行に必要な政策や社会制度の見直しについて議論する分野横断的な組織体制づくりが必要である。

2 提言の年月日

平成 25 年 3 月 22 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

子どもの生活時間は大人の生活時間に影響される。そのため、大人の生活時間の健全性という点からワーキングバランスをとる生活の訴えと、子どもの早寝早起き早ご飯という生活の習慣づけへのアピールとなる国民への生活時間健全化運動として展開されたが、それに対する本提言は学術的エビデンスとなるものとなっている。

また、最近の事例として、復興推進委員会の中間とりまとめ〈「新しい東北」の創造に向けて〉（平成 25 年 6 月）において、本提言の主要項目である外で過ごす時間の確保、触れ合い体験と安らぎの時間の確保等を柱とする子どもの成育時間の健全化は、地域社会の将来像である「新しい東北」の創造に向け今後目指すべき施策の方向性「元気で健やかな子どもの成長を見守る安心な社会」の中の一項目に位置づけられた。そして、復興庁の〈「新しい東北」先導モデル事業〉（平成 25 年度）における事業提案募集の一分野とされて、提案採択による事業化が進められることとなった。本提言は、このように、子どもの成育環境に関わる政策の立案、実施における検討資料として欠かせないものとなっていると考えられる。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

関係学協会、市民団体、地方議員レポート等の機関紙やホームページによる紹介記事により本提言発出が会員に広報され、その活用がなされている。学協会、特にこども環境学会の HP に掲載され、広く会員に広報活用されている。2014 年 3 月のこども環境学会のこども環境アドバイザー講習会にも提言がテキストとして使用された。

4 メディア

本提言は、政府、学术界、学協会、大学を主たる対象とするものであるが、ホームページに掲載される社会経済ニュース等の紹介記事やリンクにより、メディアにおける一般市民の関心も高いことが知られる。子どもの成育環境分科会によるこれまでの提言（成育空間、成育方法に関するもの）にみるように、時間の経過とともに取り上げられるようになる傾向よりみて、今後さらに取り上げ事例が増加するものと思われる。

「成育時間の課題と提言」掲載例

- ・2013 年 3 月 23 日 経済レポート専門ニュースに掲載。
- ・キリスト教保育 2014 年 6 月号（発行部数 9500 部）に「こどものあそび環境 3・こどもの成育時間」として掲載予定。
- ・読売新聞 2014 年こどもの日特集において、あそびの重要性とあわせて、子どもの生活時間の課題等、本提言の内容が紹介される予定。

5 考察と自己点検

本提言は、今まで既存の学術分野では十分に検討されてこなかった学際的な研究テーマとして、十分に意義あるものであった。成育空間では土木工学、建築学が、成育方法では教育学、保育学がその中心的な専門領域と成り得たが、成育時間につ

いては中心的専門領域が見当たらなかった。強いて言えば健康生活科学であろうが、このような中心的専門領域の不明快さが対外的な発信力を弱めていると考えられる。このようなテーマを中心的研究領域とした学術分野が確立されていないこと、成育時間が子どもの生物的時間と生活時間という2つの側面からの検討によるものであり、それを政策的に反映することの難しさを実感している。今後、現在審議を進めている「成育コミュニティの課題と提言」と合わせて、我が国の子どもの成育環境を総合的に捉え、シンポジウム等にて社会的に成育環境の改善の訴えをより強く発信していきたいと考える。

インパクト・レポート作成責任者

心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・

健康・生活科学委員会・環境学委員会・

土木工学・建築学委員会合同

子どもの成育環境分科会委員長 五十嵐 隆

副委員長 仙田 満